

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271100832		
法人名	特定非営利活動法人 友愛ホーム		
事業所名	グループホーム手鞠		
所在地	静岡県沼津市西島町8番25号		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成27年10月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員が利用者様をお願いしてきて、御自分で出来る事をして載っています。例えば、食事の準備・後片づけ・野菜の皮むき・刻み・味噌汁の味噌入れ・米とぎ・盛り付け・テーブルふき・ぬか味噌担当等があります。  
 利用者様のそれぞれの御希望に少しでも添える様に音楽会・外食・お買い物等・個人的な外出や全員で行う季節ごとのお花見等を実行しています。  
 地域で行われる行事やイベントにも参加させて戴き又、ホームでの行事にも地域の方々に参加して下さいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、近くに狩野川の流れ、香貫山の森そして大型ショッピングセンターに隣接しています。建物は鉄筋3階建てで、グループホーム、デイサービス、有料老人ホーム等を併設した福祉のNPO法人が経営しています。施設では、「認め合い、支え合い、感謝と笑顔」という理念を掲げ笑顔を絶やさない家庭的な「友愛ホーム」にしたいと支援を続けています。事業所では、理事長、施設長ともに女性で、息の合ったケアを続けています。そして施設内では、理事長さんは元氣と笑顔を振りまき、週3回の「歌の会」では、ボランティアさんとともに、なっかしのメロディをバイオリンの音色に合わせ奏でるなどの活躍をして人気を集めていました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認め合い、支え合い、感謝と笑顔を理念とし、実践に取り組んでいる。	事業所では、グループ理念を絶えず念頭に入れ、介護に当たろうと呼び掛けています。特に「毎日の笑顔を絶やさずに」日常生活を磨こうと訴えて実践しているのが印象的でした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の情報を常に確認し、出来るだけ参加・協力している。 ホームの行事については地域の方々を招待しています。	西島町は、町内会60組の地域で、防災の避難訓練、狩野川の草刈などに職員も参加し、地域への協力と融和に努めています。夏祭りには神輿の担ぎ手としても参加、子どもたちの踊りの輪には、ご利用者さんも参加してともに大喜びです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内の組長や近所の方々に出席いただき相談を受けたり相談をしたりしています。 町内のお祭りにも全面協力し、お神輿や踊りの休憩場所としてホームの空きスペースを提供しています。子供達にアイスキャンディーを出しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのいろいろな意見に対してホームの改善やケア改善につながるようスタッフ間で意見交換をしている。また、意見箱を玄関に設置して意見をいただくようにしている。	意見箱の投書の要望から「多様な介護サービスの知識」の説明会を町内で開き喜ばれました。また津波の災害時に3階に通じる外階段の活用も、この会合で意見をいただき参考になったようです。さらにさまざまな介護の相談も会議を通して出され解決を見えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員に運営推進会議に出席していただいている。また、書類等は管理者が直接届けるようにし、担当職員とかかわるようにしている。	事業所の危機管理では、津波対策がありますが現状では、行政からは、満足できる回答は少ないようです。反面地区連絡協では全市の利用者の入所退所情報が報告され活用されるなど活発です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をなると具体的な行為の項目を貼り、日々の起きた事例や日々の小さなことにも目を向け、その都度、指摘し、対応の確認をしている。	拘束の基本的事例を掲示し、教育指導しています。また内部外部の拘束研修の勉強会を開き、些細なことから拘束につながると共有認識を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において研修を行っている。職員の不満やストレスをためないよう、理事長と話し合いの機会をつくっている。月に1度のミーティングにおいて、利用者様からの意見を聞き、権利を守る為の話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に実子がいらない方が、成年後見人制度を活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族様に十分説明を行っている。不明な点はないかお聞きし安心・納得していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の折に意見を伺っている。面会時には必ずお声を掛けさせていただき近況報告をし、意見をいただいている。玄関には意見箱を設置し、施設運営やケアに役立てている。	運営推進会議に出席しないご家族には月1回のお便り時や電話時に情報を知らせたり、聞いたりしています。また利用者からは台所の手伝い時に、器具の汚れや季節ごとのクーラー清掃を指摘されることがあり改善した動機になったようです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、スタッフからの意見を聞き、皆で話し合っている。管理者は現場の関わり、職員との意見支援の場を作っている。	ミーティングでは、壁の画紙の形状改善で危険の除去の提案がありました。またトイレの水洗が最新式になり、ふたを閉めると排便が流され介護の医療チェックができない欠点があり、システムを外したとのことでした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングは理事も参加しており、現場の意見を聞く機会を作っている。給与・賞与の明細は直接理事から受け取るようになっており、話し場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を提供し、参加をすすめている。研修担当者がおり、月1回のペースで施設内研修を行っている。資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会などを通じて、他の施設のスタッフとの交流・意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にご本人様とご家族様と面会し、総合的な情報を得ることで入所後の不安をなるべく解消できるように努めている。 ご本人様にご納得するまで話しを聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面会し、状況や不安な点等細かなところまで情報を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面会し細かなところまでの情報を得て、またご希望を伺いながら、それももとにスタッフ間で意見交換し、サービスの見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先ではなく、何をすることも利用者様と共に行い、同じ時間を過ごすよう努めている。また、ミーティングにも参加していただき、意見を聞いたり昔話を聞いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況変化等は、すぐにご家族様に報告説明し、問題を共有することにより共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や生まれ育って過ごされた思い出の場所の話をして伺ったり、場合によってはその場所を訪ね機会を作っている。	ご利用者さんの思い出話は、季節や場所に関連づけて引出し、とぎらさないよう、続けていきます。こうした会話がご利用者本人の笑顔を引出し信頼関係を作り上げ、また地域社会との関係継続になっていくと話してくれました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの自席の配置に配慮したり、折り紙や台所等を一緒にやりましょうと声を掛け関わり合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先に、時には利用者様と一緒に訪問したり、ご家族様に近況を電話にて聞かせていただく機会をもうけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴を大事にし、ご本人様のご希望に伺い、それに沿ったケアが行えるように努めている。	ご本人の話に沿って聞いてあげる、その話の背景を知り、根気のいる声掛けと傾聴の姿勢が必要だといえます。このため介助が職員の休憩時間に食い込むなどありますが、前向きな職員の意欲が光っているようです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴を大切に、ご本人様・ご家族様の情報を通じて把握すると共に実践し希望に添える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりを観察し、わずかな変化にも気づくよう努めている。職員間の申し送りにより情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにおいて、ご本人様・ご家族様の思い・意見について話し合い、ケアプランに取り入れている。	職員全員の意見交換やモニタリング報告で利用者のレベル低下などを話し合い、介護計画を見直していきます。またご家族には積極的な情報を伝え理解をいただくことも重要なケアの一つだと話してくれました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの生活記録に記入し、職員間で申し送りをを行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人のニーズによって、外出に行ったり散歩に行ったり、お買い物に出掛ける等、支援している。また、ご家族様のご希望に答えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、草取りやゴミ当番などに参加している。 地域のお祭りやイベントに参加し地域の皆さんと一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に説明し、納得された後、施設の提携病院を主治医とし毎週木曜日に往診に来てもらっている。必要な時は電話にて助言・支持をもらい、検査などに付添い、適切な医療を受けられるよう努めている。	持病がある人を除き、施設の協力医の往診を受けており、この時は施設の看護師が対応しています。通院介助は、ご家族にお願いしていますが職員の対応もできるということです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が必要に応じて関わってくれている。 提携医院には、当施設の担当看護師がおり必要時には助言・指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医院との連携は十分に務めている。 他医院を定期的に医療処置を行っている方にも十分連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った場合、またその可能性がある場合は前もってご家族様のご希望・ご要望を伺い、それに沿った対応をしている。また、わずかな変化であってもご家族さんに状況を報告している。	事業所では、入所時に重度化の確認書をいただいています。そして終末期の教育については、ご利用者さんと新人職員には日常的な会話の中で話し合いをしています。このため、ご家族からは、自然な終末を迎えることが、できたといわれているようになったようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、外部の救急訓練に参加したり、その都度管理者からの指導を受けている。 研修については11月に行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に定期訓練を行っている。 地域との協力体制も確立しつつある。 3ヶ月に1度、3階への避難の訓練を実行している。	この地区は狩野川河口に近いので、1階～3階の事業所は合同津波訓練等を行っています。特に避難所情報は行政に加えて自社判断を重視し訓練を続けています。また、災害備蓄品は3階に上げ対応しています。	津波等の災害時では、職員だけの避難、誘導は限界があり、近隣の行政、町内会、事業所とともに災害共助の支援体制の整備、訓練に取り組むことが重要で息の長い対応が求められます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守る声掛け・対応を行えるようその都度、管理者が指導をしている。ミーティングの機会に事例を挙げて研修を行っている。	声掛けは、ご利用者ひとり一人にあつた声掛けを励行しています。そして本人が「笑顔」を見せるまで声掛けを続けようと指導しています。またプライバシーの尊重で、個人的な会話は、居室、風呂場でしようと教育しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でご希望を引き出したりまた、ご希望を言いやすいような言葉で行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで日々毎日過ごしていただいている。 決して急がせることはしない。 ご本人様のご希望に添えるようにご希望を伺い外出・外食も計画している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ずつ、理容・美容のボランティアの訪問がある。 髭剃りや髪の毛を整えるなどの声掛け・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日は順番にお好みの献立を伺い、一緒にお買い物に行き、一緒に調理をしている。	隣接地に大型スーパーがあり日曜日の買物などは便利です。事業所には常勤の料理人が全館の料理を見ますが調理や後片付けなどは、ご利用者が積極的に手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分量は毎回チェックし、記録している。 10時・15時のお茶の時間は、ご本人様のご希望を伺っている。 栄養士が作成した献立をもとに食事をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員に声を掛け、口腔ケアを行っています。 自立の方は、声掛けはしますが、ご本人様のペースで行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排便がいつからでないかの確認もおこなっており、腹部マッサージをしたり、水分をとっていただいたり自然排便が出来るように支援している。	現状では、療養中の1人を除いてリハパンツ、布パンツを着用しており、入所時より排泄は大幅に改善しています。また失禁などありますが、大半はパットの着用で日常を過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをしている。 水分を取っていただいたり、体操をしたり、腹部マッサージを行うなどし、なるべく下剤に頼らず自然排便が出来るよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けはしているが、ご本人様のご希望を伺いながら、入浴日・入浴時間を決めている。 就寝前に入りたい方もいらっしゃいますが、それにも対応している。	入浴は、ほぼ1日置きにし本人の意向、希望で時間を決めています。入浴を嫌う方は、声掛けの工夫、負担感の軽減で支援をしています。また、異性の入浴介助は、その感情に配慮し慎重に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを把握し、個々の習慣に応じて対応している。体調の変化にもすぐに気付くよう観察し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診断書・薬剤情報はスタッフがすぐに確認できるように置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来る事・出来そうな事を見つけて日々の生活に生かせるように支援している。 ご自分の役割をもって意欲的に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様のご希望を伺いながら、散歩・ドライブ・外食・花見等を支援している。 ホームの行事にはご家族様や地域の方々にも参加していただいている。	この地域は、狩野川べり、香貫山など、散歩コースに恵まれています。またホーム新聞、お知らせの配布で町内を職員とともに歩きます。そして桜の季節などには、ご家族の協力を得て、全員でドライブを楽しみ気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の時に予算を説明して、その範囲内で好きなものを選んで購入したり、外食したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればその都度に応じている。 家族様からプレゼントが届いたりすると、利用者様自らペンを手に取り家族様宛にハガキを書きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をいつもテーブルに飾っている。 居室にこもりっぱなしにならないように声掛けをし、常に利用者様はホールに集まり、テレビをみたり・歌を歌ったり雑談したりされている。	事業所では、3事業所合同の「歌の会」を週3日開きボランティアの合唱などで懐かしのメロディを楽しんでいます。また、ホールには、ご利用者の絵画の作品が展示されていますが、技法は、入所してから覚えたということで、素人離れした作風が人気を集めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの自席の配置に気を配り、気の合った利用者様同士で話しが出来たり、ぬり絵をしたりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にも昔から使っていたダンスやテレビなどを配置している。 食器も個々の物を使用している。	居室には、仏壇や神棚を置いてあった所もあります。また、昔の継続だとして、食器類は各自の好みで取り揃えています。その他、パーマやお化粧も個人の自由にしてもらい個人の能力を引き出すことを奨励しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状況に対応した居室の配置としている。 出来ることはやっていただき、立位が安全に出来るよう環境づくりにも工夫している。		